

笹やよもぎで団子を作ろう ~小学校1・2年生 生活科との合同活動を中心に~
出雲市立乙立幼稚園（島根県出雲市）

ねらい

- 【幼児共通】・地域の自然（植物）や地域の人々、1・2年生とのかかわりを楽しむ。
- 【3歳児】・植物の手触りや匂い・味等を感じ取ることができる。
・お店やさんごっこの発展として、お店やさん(もりもりレストラン)になりきって楽しく遊ぶ。
- 【4・5歳児】・季節の変化、植物の生長の様子に気付くことができる。
・活動を通して感じたことや気付いたことを工夫して表現できる。
- 【1・2年生】・身近な自然とかかわり合う楽しさを感じながら、季節の変化や自然の素晴らしさに気付くことができる。
・身近な人々とかかわり合いを通して、気付いたことや楽しかったことを工夫して表現できる。

展開

4月、もりもりランドへ出かけた時、子ども達は“よもぎ”がたくさん生えている場所を見付けた。たくさん摘んで幼稚園に持ち帰り、みんなでよもぎ団子を作って楽しんだ。

子どもの活動の様子	保育者の受け止め（ ） 支援・働きかけ（ ）
<p>5月1日 1・2年生とよもぎを摘みに行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生がよもぎ団子を作るという話を聞いて、園児は、1・2年生に、よもぎがいっぱいある場所を教えてあげて、今度は、一緒によもぎ団子を作ろうと話し合う。 ・小学生と一緒に手をつないで歩くことを喜ぶ。 ・1年生の中で「幼稚園の時、取りに来たことある～」と覚えている子どももいる。 ・「よもぎがあった」  <ul style="list-style-type: none"> ・「よもぎの匂いがする」 ・「こっちに沢山よもぎがあるよ」 ・「先生、見て」摘んだよもぎを見せる。 ・小学生「 ちゃん こっちに来てごらん」と誘いかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に着いて、よもぎを洗い、家庭科室でよもぎを茹でるのを見る。 ・小学生「あー色が変わった！」 ・「緑になった！」 ・「よもぎの色になった」 ・「よもぎの匂いがする」 ・明日の団子作りを楽しみにする。  <p style="text-align: center;">あっ！色が変わった！</p>	<p>「1・2年生に、良いよもぎがある場所を教えてあげよう」という思いを大切に、子ども達の言葉で教えてあげて欲しい。</p> <p>3歳児も、よもぎを見分けられるようになってきている。 小学生とかかわり合えるように「お兄さんに聞いてみよう」と声を掛ける。 よもぎの匂いを感じている。</p> <p>色の変化に気付いたことを認める。</p> <p>明日、よもぎ団子を作ることを伝え、期待がもてるように声を掛ける。</p>
<p>5月2日 1・2年生と一緒によもぎ団子を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科室で1年生とペアになり、一緒に団子の粉をこねる。 ・小学生がリードして粉を混ぜる。 ・「もう丸めてもいい？」 ・団子に、刻んだよもぎを混ぜる。 ・「緑になった」 ・「見て」と言って丸めた団子を見せる。   <ul style="list-style-type: none"> ・丸めた団子を沸騰した鍋に入れていく。 ・「まだかな」 ・小学生「(お団子が)あがってきたらいいんだよ」 ・年長「そうだよ～」(年長の中には団子が浮かんできたら、食べられることを知っている子どももいた) ・「浮かんできた！」と嬉しそうに鍋を見る。 	<p>昨日摘んだ親しみのあるよもぎを使って、団子の感触を感じたり、変化に気付いたりしながら作って欲しい。 上手に混ぜていることを認めながら、ボールに粉を入れていく。 耳たぶ位の柔らかさになったら丸めることを知らせる。</p> <p>沸騰したお湯に気を付けながら、団子を入れる様子を見守る。</p> 

- ・「軽くなったけんじゃない？」
- ・取り出したよもぎ団子にきな粉をつける。
- ・小学生がリードをして粉をつける。



- ・みんなでよもぎ団子を食べる。
- ・おかわりをする子がたくさんいる。

わー！よもぎ団子美味しそう！

6月21日 笹巻きを作ろう

- ・地域の方（木綿の会）に教えてもらいながら、1・2年生と一緒に、笹巻きを作ることになった。
- ・1・2年生と一緒にお団子を丸めて串に刺したり、柔らかい笹で包んだり、笹の葉で巻いたりする。
- ・巻き方が分からないところを小学生や、木綿の会の方に聞きながら作る。
- ・さすがに1・2年生は上手。笹の葉の巻き方を園児に教える。園児も教えてもらいながら頑張っている。



笹の葉を3枚重ねて巻くのが難しいね・・・

- ・できた笹巻きを早速茹でて会食。
- ・「おいしいね」
- ・「笹の匂いがする」
- ・色々教えてくださった木綿の会の方に、感謝の気持ちを込めて、歌を歌ったり、プレゼントを渡したりする。



7月20日 笹のお茶を作ろう

- ・1・2年生と一緒に笹の葉やよもぎをハサミで切る。
- ・1・2年生が園児に葉っぱの切り方を教えながら、サポートする姿が見られる。



自分達の身近にある野草を使って、美味しい団子になることを確認する。これからも、園児と1・2年生が仲良く一緒に活動しようと言います。

ほとんどの4・5歳児は、これまでに1～2回の経験がある。去年よりも上手に巻けるよう根気強く取り組んでほしい。3歳児には、保育者が巻き方を教えながら一緒に巻く。

小学生の巻き方の上手さを認め、園児には、お兄さん・お姉さんに教えてもらうよう声掛けする。

木綿の会のみなさんや、1・2年生と一緒に笹巻き作りをして楽しんだ満足感に共感する。

沢山作った笹巻きを、冷凍しておいて、もりもりレストランを開こうと話し、期待が持てるようにする。

木綿の会の会長さんから、「笹の葉は体に良い。笹でお茶も作れる」という話をして頂く。笹の葉やよもぎの切り方を話す。笹茶ができることに期待がもてるように話し、小学生が教えてくれたことに感謝できるように声を掛ける。

まとめ

本園は豊かな自然に恵まれており、蓬・笹などの野草、桑の実・野苺・桃・枇杷・柚子などの果物、季節の野菜、米など、地域の素材を生かしながら、また、地域の女性の会（木綿の会・やまぼうしの会）等の協力を得て、様々な食に関する活動に取り組んできた。その楽しい「食べること」の活動を通して、地域の自然に触れ、地域の自然の恵みを味わうことは、「自然に浸り、自然を感じる」活動として有効であるが、「遊びを創造する」という視点からは難しさを感じていた。そこでこの活動を「もりもりレストラン」というまとまりのある活動として、可能な内容については、併設する小学校の1・2年生（生活科）との合同活動として計画・実施し、「レストランを開く」部分を、ごっこ遊びの発展として位置付けることができた。

また、園児も職員も少人数の極小規模のために、多様な発想でダイナミックな活動を行うことが容易ではない。そこで、小学校との合同活動を実施し、1・2年生や小学校教員の経験や発想を取り入れるならば、幼稚園だけではできない遊びの広がりや深まりが期待できる。1学期の活動は、互いに親しくなることや、レストランのメニューを考えたり、材料を準備したりする活動であった。「笹巻き作り」では、1・2年生の上手さに感心し、あこがれの気持ちを抱きながら教えてもらい、頑張る姿が見られた。

小学校と幼稚園は、生活時程・時間割の違いがあり、活動を共にする時間を設定したり生み出したりするためには困難な点があるが、調整しながら推進していきたい。

みどころ

小学生と幼児が共通の目的に向かい一緒に活動する「交流活動」は、互いにかかわり合うことで引き出される様々な感情や感動、充実感や達成感など、活動することで得られる「心の動き」も共有することができ、心に残る実体験につながります。幼児の真剣さ、小学生の知恵や技能なども相互の刺激となり、意欲的な取り組みが展開されます。そのためには子どもを支える大人の連携が大切です。